

HWR-N1 を使用した空圧検査フロー 「空圧 空調ドレン管 35kPa」 を使用する例

※HWR-OP01 および HWR-OP02 または HWR-OP03 を用いて検査を行い、新設の空調ドレン管を空圧で、漏洩検査をする場合の使用例です

- ①試験配管に配管接続アダプターを接続する
※ナット仕様は、付属のパッキンを使いねじ締め、カップラ仕様は予め配管にカップラを設置します
- ②配管接続アダプターにコンプレッサーホースを付属のパッキンを使い、接続します
- ③コンプレッサーのタンクが空であることを確認して、コンプレッサーとホースを接続します
- ④配管接続アダプターのバルブを開きます
- ⑤本体の電源 **⏻** ボタンを長押しすると、ブザーが鳴り電源が入ります
- ⑥スタートメニューに進むために決定 **⏏** ボタンを長押しします
- ⑦「圧力検査判定有」が選択されているので、決定 **⏏** ボタンを押す
- ⑧前回使用したモードが選択されているので、内容を確認し、OKなら開始 **▶** ボタンを押します

- a. 検査モードを変更したい場合は、**▶** ボタンを押す
- b. **↑ ↓** ボタンを押して「空圧 空調ドレン管」を選び決定 **⏏** ボタンを押す
- c. **↑ ↓** ボタンを押して「35 kPa」を選び決定 **⏏** ボタンを押す
- d. 選択した検査モードが表示されているのを確認し、開始 **▶** ボタンを押す

※ 検査番号は、初期設定は 00-0000 です

変更したい場合は、あらかじめスタートメニューの「設定」内の「検査番号」の画面で設定できます

また、一回の検査毎に、検査番号を増やす設定の有無も変更できます

- ⑨画面左上に「加圧 35kPa」と表示され、検査での加圧目標です
 - ⑩加圧時間の表示が 00:00 になり終了するまでに、配管への加圧を行います
※加圧していない状態は圧力 0kPa ですが、ゼロ点にずれがある場合は、**▶** ボタンで調整します
 - ⑪中央の圧力表示を確認しながら目標圧力 +10kPa 程度に加圧します
 - ⑫配管接続アダプターのバルブを閉じ、コンプレッサーホースを外し、キャップで封止します
 - ⑬配管接続アダプターのバルブを開き、検査スタートのため、開始 **▶** ボタンを長押しします
 - ⑭「検査開始します」と表示され、ブザー鳴りながら、規定の待機時間 (10 分間) カウントします
※待機時間中に、規定圧力 (20 k Pa) の大きな圧力低下があった場合、「大きな漏れ判定」です
 - ⑮自動的に<検査中>表示で、ブザー 2 回鳴りながら規定の検査時間 (15 分間) カウントします
 - ⑯検査時間中に、規定圧力 (0.4 k Pa) の圧力低下があった場合、「漏れ有り判定」です
※検査時間 (15 分) のうち 終わりの 5 分間で、同様の圧力低下があった場合は、「漏れ可能性判定」
 - ⑰圧力が規定の範囲内で、検査時間が満了すると「漏れ無し判定」です
 - ⑱自動的に検査結果が表示され LED ランプが点灯するので、結果確認し、適宜データを転送します
 - ⑲結果が漏れ有りの場合、再検査を行いたい場合は、**↓** ボタンを押して再検査設定の⑧に進みます
- ※本検査は、環境温度の影響を受けるので、直射日光の当たる場所での場合や、検査中に温度変化が発生したときは、気象条件が違う日時に再検査するなどして、より正確な検査とします